

何ででしょうね？・・・いや、マジで。

冬夜の時雨

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

転生？なのかな。。。。

目次

| | |
|--------|----|
| あー、はい。 | 1 |
| はあ | 4 |
| Yes! | 7 |
| やはり | 11 |
| かなしきかな | 13 |

あー、はい。

気付いたら、あのクライン、そうです。はい、壺井遼太郎に転生してました。

取り敢えず、寝た。

転生する少し前のこと。

ー自宅ー

俺こと今井健人は、自宅にてある儀式を行っていた。
ネットで調べた方法はいくつも試したが、今回のこれは成功することを願う。

勘のいい人ならば一瞬で思い付くだろう。

そう、異世界である。

エレベーターから紙、実にさまざまな方法があるが、全部合成の紛い物である。そんなことは百も承知でも異世界を願わずにはいられなかった。

自分自身の今の状況はかなり不味いことになっている。
つまりはやらかしたのだ。

詳しくは話さないが、要するに信用が無くなった。
もう、クレジットとか使えない。いやーマジ不便。
と言うことで、今回は神頼みの方法でいこうと思う。

まず、願い事を紙に3つ書く。
次に正座してただ祈る。

はい終了

ちなみに今回はやけくそで作ったものだ。

まあ、ろくでもない。いやまじで。

時間が過ぎるのは遅い。何故なら？ 退屈だからだ。

だが止める訳にはいかない。

3分後。。。

寝ていたw

で、気付いたら転生である。

よりにもよって一番可哀想な奴。

いや、理由なんぞ必要ないだろ？

みんなすぐ分かるはず。

と言うことで転生の特典が使えるか試してみよう。。。

1つ目、将来設計

これは、自分が最終的にどうありたいかを決めることができる。尚、これは必然となる。また、その過程も決めることができる。これは変更することができない。

これを行う際には、将来設計と将来設計をする意思をもって言わなければならぬ。

2つ目、お小遣い

これは、1日に一度お小遣いを受けとることができる。

また、自身が必要としているお金の種類が手に入る。

額は1〜∞である。高額になるほど確率が落ちる。

尚、これを行う際は、お小遣いとお小遣いを貰う意思をもって言わなければならぬ。

3つ目、天災

これは、全てのことが当たり前以上にできる。

超逸般びーぽー。所謂バグ。

特典はこれである。

と言うことで、「お小遣い。」

俺の手のひらに100万円が降ってきた。オソロシー。続いて。「将来設計」

1時間後に今から書く全ての能力を制限、デメリット無しに習得する。

これからの小遣いは毎度1億とし、それらは全て銀行へと自動的に振り込まれる。

原作主人公である桐ヶ谷和人のハーレム要員において自身が会いたいと思う瞬間に（TPOをわきまえた上で）会うことができる。

ハーレム要員と随時指定した者は全て例外無く会う時間に比例して自身への好感度を上げる。

—————

最後にこれら全てにおいて全てのものは例外無く不審に思わない。以下655550文からなる綿密な将来設計、だが、決定されたイベントは容姿のみである。

イベントは書かれてはいない。

多分に欲望があるが。

と言うことで欲しい能力を片っ端から書いて行こー。

言っておくけど、アバター名はやはりクラインでいこうと思う。

はあ

ぶつちやけて言うとか、あんな能力持つてくるわけないでしょw
はあ、もう、想像がヤバイよねー。18禁になりそー。

と言うことで、実際に得た能力は、何てことはない
才能、揺るぎ無い精神、幸運である。

この3つに説明なんて不要。

と言うことで、妄想をフイバーさせたあんな能力を考えたわけ
です。

「あんたさつきから一人でぶつぶつとうるさい。」
母親です。

「わりいーな、お袋。」

こんな風に返す、中学生の男子がいましたとき。
才能、溢れ出てるよねー。それあるー。

現状を軽く説明させて貰うと、俺は中学1年生。お袋と二人暮らし
である。

主人公が誕生するまで何年かかるのやらわからねえ。
キリの字って早く言ってみたい。

—————

自分、ぶきよ、、違う違う。

才能を生かしてジャンプのニンゲン？技を練習してみることにし
た。

結果。

先ずは筋肉だな。男はよお。

と言うことで毎日腹筋300回腕立て伏せ100回背筋100回
30kmのランニング冷暖房は使わない。そんなことをしてみた。

まあ、禿げる筈もなく普通に筋肉が付いた。

学校生活で言うと、フツーに楽しんだ。

ゲーセン行ってカラオケ行ってボーリング行って焼き肉行って。
勉強？

授業しかやってない。

あの、思っんですよ。

いくらできるようになるからと言ってやる奴なんているかもしれないけどやらないでしょ。

ぜんこくとういつ、とか言うやつはちゃっかり10位でしたがね。数学のや○です。

……なーんてね。

この、……なーんてね。で分かる人OKです。

「おーい、りよー。」

俺を呼ぶ声で我に帰る

そう、今俺は、オネーサンとお話ししているのです。

見た目は子どもなんですけどね。

こいつ本名全然言わないんだよなあ。

あ、今はもう20才です。おれ。

どうやらそろそろソードアートのαテストが始まるらしい。あと

5、6年後くらいにはデスゲームが始まる。

「おい、りよー。そろそろ反応しろ。」

じゃないと、オネーサン泣きわめくゾ。」

「勘弁してくれよう。アルゴー。」

と言うかどうしたんだよ急に呼び出して。

なんだあ？ 悩みか、だったら大人な俺様が聞いてやるぞ。」

「あー、無いナ」

無いらしい。

「で？ どうしたんだよ。マジで」

「りよー、知ってるんだゾ？ お前が何人かの中学生と仲がいいの」

ぎゃー……& ; , * | , #) , | . # \$! & ,

10秒位意識が飛んでたぜ。

「ちよ、おま、それどこから」

「少し尾行すれば、すぐに分かるンダヨ」

だとさ。ちよーうけるー。

それあるー

・
・
・
・
・
・
・
・
な—んてね。

はあ。

Yes!

「そ、その、なんだ？マジすんません！いくら、いくら出させる氣でいるんだおまええ」

「オイ、実はかまけたただけなンダヨ」

え

このあとめちやくちや怒鳴りまくって回りの人に指さされ陰口が始まり、すんげー恥ずかしかった。

全員よべよ

という一言。重すぎて重い。あれ？何言ってたんだ？おれ。

読んだらね、30分後に全員来てしまったんです。原作キャラの幼少期verが。。。

俺以外みんな仲良く喋ってる。

回りの人にチラチラと見られながら。

精神的に死にそうな今日この頃。強制的にとクラインの感情を思い知ることになったのでした。

何と無しに話し解散した。一応全員送り届け俺自身も家に帰る。まあ、と言っても独り暮らしなんだけどね。

学校の先生にはこちら辺の適当な大学でいいと言っていたのに、勝手に推薦されてしかも受かつちやつてたとか言う幸運。

あの、俺が感じる幸運と何か違う気がするんですが。

pcのスタンバイ状態を通常に戻す。

XPが使えなくなったせいで少しの間だがwindo○s消す羽目になってしまった。わざわざOS作る時間も勿体無いので、LIN○X使うことにした。これが面倒でねえ。

プリンターとの接続だとかルーターの改造とかマジでめんどい。だが、コマンドはすんげー使いやすいw
ウイルスとか来てもまず起動しないし。

そんなことを言いつつも起動するのはwindo○s7でしたがね。

windowsって成功して失敗しての繰り返しだから選びやすいよねー。

リアルブーストでwindo○s開くようにしている。

ながながと話し込んだが、目的は、そう。

ネットゲだ。

俺はチームのキャプテンっていうかリーダーしている。ギルドを作ったのだ。

何作品か同じ人とやっている。言っておくが、皆男である。やはりそこはクラインですね。

今日はボス戦である。

えーつと、、はい！

ボス戦終わりましたー。

書かなきゃいけないことでは無いよねー

そんなこんなで大学に出勤。

後輩に出席カードを出しておいてもらったのでおそーい出勤である。

「センパイ、」

「なんだ？菊岡」

シラーっ見てくるこいつは、そう。菊岡だ。

ヤバイね。こう言うところにも幸運って反映されていると思うよ。とは言うものの、少し話すくらいだ。

俺は今年で終わりだし、余計に話さなくなるだろう。

「センパイは卒業後はどうするんですか？」

「あー、適当な会社に行って社畜する気だよ」

「センパイ？たぶんそれ無理ですよ？」

そう言った瞬間にメール届く。

メールにはこう書かれている。

りようたろうくん

貴方を大学院方に推薦したところ、首席で逝くことになりましたので、わたしは何も悪くはありません。まあ、普段からサボりまくってる貴方が悪いんですよ。ええそうです。全て貴方が悪いんです。わたしは何も悪くない。頑張つて？逝つて来てください！テヘペロ！

あ、戻つてこなくていいですよー。

読んだ瞬間、スマホは粉々になっていた。

「あ、俺、何か見たっけなー」

「センパイ、この手紙をどうぞ」

同じ内容が書かれていた

瞬間やぶ

あれ？破けない。よく見てみると、

ざんねーん。これ、破けない紙だからー。テヘペロ！

燃やし

ざんねーん。これ、燃えない紙だからー。テヘペロ！

トイレに流した。瞬間、ポスンっ

ポストを見ると。

ざんねーん。これ、君から離れるとセンサー届いて貴方がいる場所に届くようになってるからー。テヘペロ！
泣いた

やはり

やはりクラインが風林火山ではないチームを作るのは間違っている。

と言うことで、結局ネトゲチーム名は風林火山である。

あれから大学院に入り、教授したりしながら卒業した。

最近は遊んでばかりいる。

人間、金があると働かないんです。

覚えていますか？俺には幸運とか言うやつがあるんですよ。

まあ、ほとんどがあれいづらのおやつや欲しいものに消えていくんですかね。

直葉さん、毎回毎回いい竹刀選びやがってー

あーでも、雀蜂は確かに使いやすい。

でもね、おじさん的には烈火とかで済ませて欲しいんだよね。なに？名前も掘りたいだつて？さすがですね。

後で、風林火山あげるよ。

明日奈さん、貴女の両親との食事会、マジ緊張する。

君がね？毎回買わせてくる服の代金、数十万してるんですけど。あれ？目から血が・・・

オネーサン、おまえ毎回とんでもない情報ばかり持っていきやがって、口止め料そろそろ払えなさそうなんだけど

詩乃さん、意外と人形好きなのはわかったけど、俺作るの止めてくれない？藁人形みたいなこといつやられるかわかったもんじやないです。てか、皆持っていて驚き。

以下略。いつか書こう。

明日奈の家に行くことがあったということもありすごーさんがまじ影薄いの。可哀想なの。消えそうなの。いつそのこと消えろ。テヘツ

という感じに時は過ぎていき、SAOが始まる時になった。

次回、SAO編

みたいにやりたかったんだけど、文字が少なかった。

仕方ない、こちら辺でいっちゃ他の人の目線でもやりましょう。

え？センパイですか？あー、あの人。

センパイは所謂バカなような天才と言うか、そう！変人だ。話すことは難しすぎて変態。

世界が変わるとか言っていましたね。あ、自分、就職決まったんですよー。うん、そうです。センパイの会社ですね。所謂自衛隊？みたいな感じですよ。

りょーのことか？そうだなア。いい奴ダヨ。アイツ。

アイツのおかげで生きていけてるカラナ。

何より、情報屋として育ててくレタのは、アイツダヨ。

マア、これからヨロシクナ。

りょうさんですか？そうですね・・・両親と笑い合えるようになったのはあの人のおかげなんです。

毎日が楽しくなったのもあの人のおかげです。

両親は彼を私の婿にしようとしているみたいなのですが、なかなかうまくいっていないみたいです。あ、勉強も教えてもらってるんです。一緒に教えてもらっている全員が、かなり成績がいいんです。

取り敢えず、偏差値70以上キープできるように頑張りました。

はい、上から菊岡、アルゴ、明日奈です。

なんか下手くそですいませんね。

かなしきかな

ーキリトよお、おめえかわいい顔してんじゃねえか。俺は、そっちの方が好みだぜー

そう、SAO開始日である。

実を言うと、リアルで知り合いの原作メンバーってアルゴと菊岡だけなんだよね。

みんな一度は書いたことがあるだろ？妄想日記。

皆さんかなり唾然とすると思いますがすいません。

あんなクライン見てみたいなんていう前世の妄想を垂れ流してました。やだ、ヨダレみたい。

シヤチクになりネットゲでも仲間と戦うには楽しいよな。

なので原作通り仲間とここでおちあうことにしてる。

かれこれ二時間になるが誰も来ない。

その間、アルゴの手伝いをしたりしてたんだが見落としては無かった筈だ。

あれ？俺、もしかしくなくてもボツチ？

風林火山は？男集団は？

もういいや、一人で行こー。

そんなときだ、

ーあの、クラインさんですか？風林火山のー
はい

ー良かったです。でも私たち女なんです、大丈夫ですか？ー

え？それって全員、

ーはい。ー

え？

ーあと、何人か来ますよ？ー

えーつと、よろしく、、、

(やべえよやべえよさつきから汗がとまんねえ。実際は出てないけどお！)

とりあえずだよ、風林火山のメンバーを紹介するぜえ！

俺ら男集団じゃなくて黒一点のどお見てもおっさんが無理やり組
ませてるような華々しいチームになっていました。

おいおい、こりやあまずいんじゃない？

取り敢えずメンバー紹介、

リーダー クライン

サブリーダー アスナ

．．．．．え？、アスナ？は？アスナ？え、なんで？

ああ、そう言うことか

「おいアルゴくん！ちよつとこつちに来ようかあ」H A H H A H H

A H H A ー ー ー

仕方ない、

「みなさーん、頑張つて行こーぜ!!」

シラ ー ー ー ー ー ー

あ、そういうところは変わらないんですね。

クラインさん泣いちやうよ？

「いいわよ、泣いてなさい。ただしむさ苦しいからあっちに行つて
貰えないかしら」

シノンサン、血も涙もないのね

「ほ、ほら、泣かないでください。クラインさん！」

シリカちゃんかわええー。

ナデナデ

「ふあああ」

「もういんです。これ以上やるとハラスメント警告YES押しますよ
？」

あ、やっぱ怖ええ

「取り敢えずアンタは金稼いできなさいよ！」

リズさん、ぱねえっす。

死んじやうかもよ？俺様。冗談じゃなくてマジで。

死んでもいいって？わかったわかったいきやあいいんだろ？

いいだろう、行つてやるぜ。

「じゃあ、多く狩った方が勝ちね？ 負けた方はなんでも言うこと聞くこと。」

ではスタート！

という声が聞こえたのと同時にすんごい早さでフィールドに行くアスナの姿があり、それはまさしく俺の敗北が決定した瞬間でもあった。

結果、1日買い物に付き合わされました。